

<b>〔科目名〕</b> <p style="text-align: center;">商 業 簿 記</p>	<b>〔単位数〕</b> <p style="text-align: center;">2 単 位</p>	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目 基幹科目
<b>〔担当者〕</b> 池田享誉 Yukitaka Ikeda	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 最初の授業中に通知 <b>場所:</b> 研究室(514)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>青森公立大学の会計分野科目には、理論を重視した授業科目と実践を重視した授業科目が配置されている。本科目は、そのうちの後者の科目に当たる。</p> <p>本科目は、1年生春学期開講の「会計学基礎論」で学んだ初級レベルの実践的スキルをより高めることを目的とする科目である。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>本科目は、同じ1年次秋学期に開講される「工業簿記」、「財務会計論Ⅰ」と共に、「会計学基礎論」で学習した簿記会計の知識をさらに高めるための科目である。実践を重視した授業科目である本科目と「工業簿記」および、理論を重視した授業科目である「財務会計論Ⅰ」を併せて履修することで、理論と実践の両面から会計を理解することができる。とくに、2年生以降で、会計分野の科目を履修することを予定している場合は、「商業簿記」、「工業簿記」、「財務会計論Ⅰ」は前提科目となることが多いので、積極的に履修しておくことを勧める。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>最終目標:日商簿記検定2級レベルの商業簿記を学習するのに十分な基礎知識を身につけること</p> <p>中間目標:日商3級レベルの知識</p> <p>* 日商簿記検定試験は、6月、11月、2月の検定を中心に通年で実施されている。本科目履修学生は、ぜひ資格取得に挑戦してもらいたい。</p> <p>** 商業高校出身であって、すでに日商簿記検定2級に合格しており、なおかつ先の学習を希望するものに対しては別途対処するので申し出ること。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>学生の皆さんからの意見としては、「説明が丁寧でわかりやすかった」、「プリントが用意されていて復習がしやすかった」、「毎回確認テストを実施してくれるところがよかった」、「TAがしっかりしている」等の肯定的意見をもらえ、とてもうれしく思っています。今年もこのように思ってもらえるように続けていこうと思っています。改善すべき点としては、「進むのが速い」、「進むのが遅い」、「私語が多い」等の指摘をもらいました。「進むのが速い」という点については、進むスピードは、受講学生の9割の人が問題を解き終わった時点で先に進むようにしていますので、もし、速いと感じるようであれば復習・予習をして授業に臨んでください。「進むのが遅い」という点については、9割の人はそう感じるかもしれません。理由は前記の通りなので、復習したり先を予習したりしてみてください。「私語が多い」という点については、質問しやすくするために多少のざわつきは容認しています。私が発言する時には静かになっているので、とくに注意はしませんでした。座席は自由なので、集中しやすい場所を選んでください。</p>		

<p><b>〔教科書〕</b></p> <p>『ALFA 2 commercial Bookkeeping』大原簿記学校（テキスト、問題集、解答）</p>	
<p><b>〔指定図書〕</b></p> <p>なし</p>	
<p><b>〔参考書〕</b></p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b></p> <p>会計学基礎論</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>ほぼ毎回の授業で小テストを実施する。その他に期末試験を課す(電卓以外持込不可)。 レポートは課さない。 大学入学後日商簿記検定合格者には特典を与える(必ず合格証のコピーを提出すること)。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>小テスト 20 点、期末試験 80 点の合計 100 点とし、<math>A \geq 80</math> 点、<math>B \geq 70</math> 点、<math>C \geq 60</math> 点、<math>D \geq 50</math> 点、<math>F &lt; 50</math> 点として評価する。</p> <p>* 大学入学後日商簿記検定試験 2 級、3 級に合格したものは、特典を与える(必ず合格証のコピーを提出すること)。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>この科目は、春学期の「会計学基礎論」で学んだ知識をさらに高める科目である。学生の皆さんがどれだけ理解できているかを確認するために小テストを行う。この小テストにより、皆さん自身も自分の理解度をチェックし、各自計画を立てて学習を進めて欲しい。 また、同時期の 1 年秋学期に開講される「工業簿記」、「財務会計 I」も併せて履修することを推奨する。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):商品の決算整理① 内 容: 棚卸減耗損・商品評価損 教科書: 第 3 章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):商品の決算整理② 内 容: 棚卸減耗損・商品評価損 教科書: 第 3 章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):債券・債務の会計処理① 内 容: 現金取引、クレジット取引、手形、電子記録債券・債務 教科書: 第 4・5 章</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):債券・債務の会計処理②</p> <p>内 容: 手形、電子記録債券・債務</p> <p>教科書: 第5章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):債券・債務の会計処理③</p> <p>内 容:電子記録債券・債務、債務保証、差入保証金</p> <p>教科書: 第5章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):有価証券①</p> <p>内 容:売買目的有価証券、満期保有目的債券</p> <p>教科書: 第6章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):有価証券②</p> <p>内 容: 子会社株式、その他有価証券</p> <p>教科書: 第6章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):有価証券③</p> <p>内 容: 端数利息・精算表</p> <p>教科書: 第6章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産①</p> <p>内 容:建設仮勘定</p> <p>教科書: 第7章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産②</p> <p>内 容:減価償却</p> <p>教科書: 第7章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産③</p> <p>内 容:圧縮記帳</p> <p>教科書: 第7章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産④</p> <p>内 容:固定資産の買替え</p> <p>教科書: 第7章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産⑤</p> <p>内 容:保険・有形固定資産のまとめリース・固定資産の決算</p> <p>教科書: 第7章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産⑥</p> <p>内 容:リース</p> <p>教科書: 第7章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産⑦</p> <p>内 容:決算</p> <p>教科書: 第7章</p>
定期試験	筆記試験